

西諸県地域の普及活動

令和7年4月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 4月期子牛郡品評会が開催

10日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年4月期子牛郡品評会が開催されました。

4月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た47頭が出品され、審査の結果、優等賞に7頭、尙等賞に21頭、弍等賞に9頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の鬼塚稔さん出品の「いずみ628」号(二刀流-耕富士-勝平正)、2席は高原町の木佐貫和宏さん出品の「れいら」号(羅王45-宗守富士-美穂国)、3席は小林市野尻の土居義信さん出品の「あとぜ445」号(美津秋-富久竜-秀菊安)が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、体の幅、高さ、長さがあり、種牛性に秀でているとの講評でした。



【優等賞首席 いずみ628号】

2) 小林市総合畜産共進会・高原町総合畜産共進会が開催

4日に、高原町畜産振興センターにおいて、第48回高原町総合畜産共進会が開催され、和牛と乳牛合わせて91頭の出品がありました。肉用種種牛の部は吉松正明さん、乳用種種牛の部は清水豊さんがグランドチャンピオンを獲得されました。また、(株)ミヤチク高崎工場において、開催された枝肉の部では22頭の出品があり、(有)松岡ファームさんが首席を受賞されました。

7日には、小林地域家畜市場において、第20回小林市総合畜産共進会が開催され、和牛と乳牛合わせて82頭の出品があり、和牛種牛の部は二木伸之さん、乳用種の部は永田一成さんがグランドチャンピオンを獲得されました。また、(株)ミヤチク高崎工場において、開催された枝肉の部では47頭の出品があり、(株)竹之内畜産が首席を受賞されました。



【和牛種牛の部 優等賞首席ひめ226号】

3) JAえびの市地区子牛品評会

8日に、畜産センターにおいて子牛品評会が行われ、優等首席は入佐幸男さん出品のさくら号(二刀流-美穂国-忠富士)、2席は竹下忍さん出品のおぼろ号(白隆鵬-耕富士-美穂国)が受賞されました。受賞牛は体積が豊かで、伸びと深さ共に優れていたとの講評でした。

また、同日に家畜の供養と家内の繁栄を祈願する馬頭観音祭が開催され、厳粛に神事が執り行われました。

4) 第1 回水稲栽培講習会が開催

22、23 日に JA 高原支所・野尻支所及び須木ふれあいセンター、普及センターで、第1 回水稲栽培講習会を開催し、当管内の生産者 68 名が参加しました。

この講習会は、水稲栽培の基本技術を知りたい方、水稲技術を改めて知りたい農業者に対し、水稲栽培の基礎を身につけ、地域全体の米の品質向上を図る目的で行いました。

講習会の内容は、水稲栽培管理の前半（耕起～中干し）や米の品質について基本的な内容を説明し、アンケートでは、土壌診断を実践したい等の旨が記載されていました。

第2回は7月中旬に、栽培後半（穂肥、防除、水管理、収穫、乾燥調【水稲栽培管理を説明】整）を説明する予定です。



II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動

(持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

4日と11日に、高原町で果樹、花き、畜産での就農希望者3名に対して、それぞれ相談会を開催しました。いずれも昨年度からの継続案件で、就農ビジョンが明確となってきたことから、今後、町の新規就農者の認定に向けた青年等就農計画の作成やあわせて金融機関に対する融資の相談等も進められる予定です。

22日に、えびの市で水稲での就農希望者に対して相談会を開催しました。初回の相談対応で、就農に際しては安定経営のために野菜等の他品目の作付けや作業受託なども含めて検討ができないかといった提案が行われました。相談者の計画内容が固まり次第、再度、相談対応を行う予定です。

※就農相談対応 4者4回

(内訳 えびの市：水稲1者 高原町：果樹1者、花き1者、畜産1者)

2) にしもろサップ新旧役員会の開催

10日に、にしもろサップの新旧役員会が開催されました。令和6年度の旧役員と新役員候補者、市SAP担当、普及センター担当の計15名の参加のもと、今年度、実施していきたい自主企画の内容について計画を協議しました。

令和7年度の第一回目の自主企画として、まずは、5月20日に計画されている「にしもろサップ交流会」について、役員、関係機関と協力して開催を支援していきます。



【新旧役員と市・県の担当者との顔合わせ】

(未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現)

1) 種子処理用殺虫剤の飼料用米種子への塗布

28日に、えびの市にて、種子処理用殺虫剤「ルミスパンス」の種子塗布を実施しました。

「ルミスパンス」を種子塗布することで、ウンカ類に対し、移植後最大90日間効果が持続します。いもち病に強い飼料用米品種「ひなたみのり」に使用することで、箱粒剤散布より省力化・コスト低減が見込めます。

今後は種子処理剤と箱粒剤散布で害虫効果比較を行っていきます。



【処理後の種もみ】

(にしもろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立)

1) こばやし里芋生産部会が設立

30日に、JAこばやし管内の里芋生産部会（小林市、高原町、野尻）が合併し、新たに、こばやし里芋生産部会が設立されました。前身の部会は、約50年の活動実績の中で里芋振興に大きく貢献したものと考えます。

現況では、鉄コンテナ・フレコンバックでの収穫・出荷受入が可能となり、収穫時の軽労化を実感する生産者の声も見受けられました。

本年度、普及センターでは、サトイモ疫病対策の啓発など、適時、必要な情報を届けられるよう活動します。また、種芋生産・供給の強化に向け、優良種芋の保存・選抜に関する支援や品種比較試験を行っていきます。



【総会での情報提供の状況】

(適正な管理と飼料基盤に立脚した強い畜産経営体の育成)

1) 秋冬作飼料作物展示ほの収量調査の実施

23日にえびの市、28日に小林市において2カ所の秋冬作飼料作物（イタリアンライグラス等）展示ほの収量調査を実施しました。今冬は低温傾向であったため、生育が心配されましたが、例年並みの収量でした。今回の収量調査と栄養成分分析の結果をもとに、来年度の秋冬作飼料種子申込書に掲載する品種の選定を行います。



【収量調査】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) いちご健全苗育苗検討会の開催 (JA えびの市)

28日に、JA えびの市にてJAの担当者と健全苗育苗に向けた検討会を行いました。一昨年は炭疽病の発生、昨年はどうんこ病の発生があり、育苗期における栽培管理の見直しが急務となっています。それらに対応するため、今年度は栽培暦の見直しや肥培管理の比較試験、高温対策として紙ポットの試験などを行うこととなりました。

来年度以降に地域で取り組める対策を確立できるよう、今年度しっかりと調査を行いたいと思います。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) 小林市果樹農業振興対策協議会役員会の開催

8日に、普及センターにて役員会が開催され、役員5名、関係機関3名が参加しました。

役員会では、管理講習会の日時と場所、内容等について話し合い、5月12日の開催が決定しました。これから、梨・ぶどうの重要な管理時期となるため、講習会や個別巡回にて指導を行っていきます。

2) JA こばやしマンゴー部会 出荷目揃え会

14日に、JA こばやしマンゴー選果場にて出荷目揃え会が開催され、生産者40名程度とともに参加しました。JA担当者から情勢報告や出荷要領について説明があり、普及センターからは、新規就農者受入体制整備や炭酸ガス施用方法、生理障害対策等について説明しました。今後も病虫害や生理障害の低減に向けて巡回指導や講習会を行っていきます。



【JA 担当者の説明を聞く参加者】

3) ぐれ〜ぷ講習会

22日、ぐれ〜ぷ会員のほ場(小林市内)にて開催された標記講習会に参加しました。新たに加わる会員や普及センターの自己紹介の後、参加者と園地主の間で、花穂整形のタイミングやかん水管理等の質問及び回答をフリースタイルで行いました。また、参加者同士も互いの園地の状況を共有するなど交流を行いました。

今年度も関係機関と連携して支援していきます。



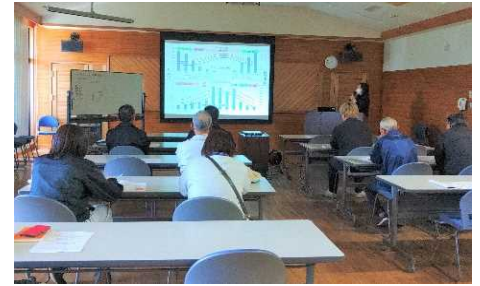
【摘粒を实践する参加者】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) 西諸県地区ランンキュラス栽培講習会が開催

15日に普及センターで開催し、生産者6名と関係機関6名が参加しました。現在、ランンキュラスは収穫が終了し、次作のための球根作りの重要な時期となるため、毎年実施しています。今回は、専技センターから球根養成から保管までの管理で注意すべきポイントについて、普及センターから土壌消毒とハウス・資材準備について説明しました。

また、講習後は、今作の課題や解決策等について、全員で意見交換しました。高温期の初期管理など、関係者で課題共有できたことを活かし、解決に向けて支援します。



【専技の講義を受ける参加者】

2) 高原町花卉部会の定例会が開催

24日に部会員ほ場で開催し、生産者6名と関係機関4名が参加しました。ほ場巡回では、お互いのキクの生育状況について情報共有しました。巡回後の定例会では、JAから販売の情勢について、普及センターから昨年度に実施した残さ分解促進資材の展示ほ結果について報告しました。

葬儀需要等の低迷で厳しい販売状況ですが、安定生産の維持のために適切な技術支援に努めます。

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 一番茶前茶園巡回の実施

3日、西諸茶業青年会の一番茶前茶園巡回が行われ、生産者5名と関係機関4名の計9名が参加しました。

今回の巡回では、各茶園における生育状況、病虫害発生状況及び摘採予測日などを確認し、今後の管理等について意見交換が行われました。

巡回時の生育は、平年より5日程度遅く推移しており、霜害等による大きな被害もありませんでした。



【茶園巡回の状況】

2 プロジェクト(総合、専門)以外の普及活動

1) 6次産業化地域相談会の開催

3日、6次産業化地域相談会を開催しました。相談会は、フード相談ステーションのコーディネーター同席のもと、果樹で新たに6次産業化に取り組む農業者に対して、総合化事業計画やハード整備のスケジュール確認を行うとともに、専門家派遣により計画作成を支援する地域資源活用・地域連携サポート事業の活用の提案がフード相談ステーションから行われました。

今後、相談者の希望に応じて計画作成に係る支援策の活用が行われる予定ですが、普及センターとしても全体計画の進捗確認等の伴走支援を継続していく予定です。

2) 畑かん関連の協議会総会が開催

18日、小林市文化会館において、「西諸地区農業水利総合開発事業促進協議会」及び「小林市畑地かんがい事業推進協議会」、21日に高原町ほほえみ館において「高原町畑地かんがい事業推進部会」の総会が開催されました。

総会終了後、普及センターからは畑かん営農に関する情報提供を行いました。

今後も関係機関と連携して、畑かんを利用した営農の推進を進めてまいります。



【普及センターによる情報提供の状況】

3) 県促成ピーマン共同計算委員会の現地検討会に出席

11日に、JA西都地区管内にてピーマンの現地検討会が開催されました。

今回の検討会では、県内で3年前から試験的に導入されている新品種の生育状況の確認と、その普及状況について意見交換が行われました。この品種はうどんこ病の耐病性があるため、うどんこ病に悩まされているほ場では導入効果が高いと思われます。今回の視察では、この品種特性を改めて確認することができ、また、他産地での生育状況も確認することができました。

今後の普及に向けては栽培方法の確立がなされていないという課題がありますので、引き続き管理方法と生育状況の確認を行ってまいります。



【生育状況を確認する技術員】

4) こばやしピーマン部会栽培・出荷講習会の開催

16日に、三ヶ野山出張所にてJAこばやしの雨よけピーマン栽培・出荷講習会が開催され、生産者が35名参加されました。

栽培講習会では、普及センターから、昨年高温による影響で収量が減少したことを踏まえて、かん水管理や遮光・遮熱、強制外気導入など高温対策について紹介しました。生産者からは強制外気導入についての質問が多くあり、今年数戸で取り組まれることとなりました。また、出荷講習会では、JA営農指導員から出荷規格などについて説明があり、B品の見分けなどを確認しました。

今年もいよいよ雨よけピーマンの出荷が始まりましたので、昨年以上に収量がとれるよう関係機関と連携して支援を行ってまいります。



【出荷規格の説明を聞く生産者】

5) 西諸県地区果樹技術員会総会及び第1 回定例会の開催

23日に、普及センターにて総会及び第1回定例会が開催され、関係機関19名が参加しました。総会では令和6年度事業実績及び収支決算、令和7年度の事業計画及び収支予算について可決されました。令和6年度は食味調査や県外視察等の活動を行うことができました。

今年度も現地見学などを活発に行いながら、関係機関の情報共有を行い、産地の課題解決に向けた活動をしていきます。



【協議を行う技術員】

6) 令和7年度西諸県地区花き技術員会総会及び第1 回定例会の開催

23日に普及センターで総会及び定例会を開催し、関係機関（県、市町、JA）14名が参加しました。令和6年度事業実績及び収支決算、令和7年度事業計画及び収支予算が可決されました。

総会後の定例会では、管内花きの生育概況や展示ほ計画、補助事業について情報を共有しました。昨年度は県内外の視察や生駒高原でのランアンキュラス栽培実証など、積極的に活動しました。

今年度も関係機関と協力し、産地の課題解決に向けて活動します。

※この報告書では、JAみやざきこばやし地区本部を「JAこばやし地区」、
JAみやざきえびの市地区本部を「JAえびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。

